

歴史を彩る人・作品

——総合芸術アーカイブセンターの研究から

History of Ceramics in Art and People

第一回

伊澤修二東京音楽学校 初代校長の胸像をめぐる

橋本久美子

音楽教育に西洋音楽を導入することによって日本の近代化を推進し、アジアの強化を図った東京音楽学校初代校長

伊澤修二(嘉永四―大正六年〔一八五一―一九一七〕)は信州高遠藩に生まれ、日本の近代教育に多大な功績をのこした開拓者である。師範教育、進化論や教育学等の西洋学説の紹介、音楽教育、体操教育、豊唾教育、国家教育社の結成、学制改革、教科書検定制、台湾教育、吃音矯正、訛音矯正、中国語発音の研究など十指を超える新分野の扉を開いた。師範学科調査のため米国に留学した明治八年(一八七五)からの三年間に唱歌教育も経験して日本の音楽教育の遠大な見取り図を描き、音楽取調掛長と東京音楽学校初代校長をつとめた^{〔*1〕}。彼の胸像が東京音楽学校に建立されたのは今から八十五年前のことである^{〔*2〕}。

音楽取調掛時代の伊澤は「蝶々」や「螢(螢の光)」を含む『小学唱歌集』全三篇の編集に携わった。西洋と日本の音律を比較し「毫毛異ナルコトナシ」^{〔*3〕}と主張し、音楽教育への西洋音楽導入を決定的にした。この菌切れ良い主張は、当

時訳出された『維氏美学』(Eigete Veron著、中江兆民訳、明治十六―十七年、原書は一八七八年出版)などにおける、欧州楽は黒奴や黄色人種の音楽と「全く相異なる」とする西洋学説に真つ向から異を唱えるものであった。『維氏美学』では、支那の音階が西洋音階より少ない五音なのは黄色人種の耳が半音を聞き分けられないためで、黒奴や黄色人種はモーツァルトやベートーヴェンの極上の音楽には感動せず、粗野な曲調が高揚すると感悦し手舞い足踏みする、それは禽獣が歌曲の調子に感応して舞踏鳴囀するのと同じで動物の至情である等々、白人優位が堂々と掲げられていた。日本人が西洋音楽の技術を修得することは、アジアの強化をも意味した。伊澤は後の台湾教育でも、台湾人は学んでいないだけで能力は日本人と同じで、教育によって融和を図ることができると考えた。

著書には『教育学』(明治十五年)を始め、『学校管理法』『教育応用生理的

心理説略』『視話法』『視話応用国語発音指南』『視話応用音韻新論』『吃音矯正の原理及実際』等、訳書にはD・P・ページ著『教授真法』(明治八年)、T・ハクスリー『生種原論』(明治十二年)、同『進化原論』(明治二十二年)等がある。『伊澤修二先生』胸像は昭和五年(一九三〇)七月二十六日、当時の乗杉嘉壽校長の発案により創立五〇周年記念の一環として建立された。二年前に着任した乗杉は、初代校長の肖像すらない学校で、朽ち果てた壁と雨漏りの跡に「魂の抜けたルイン(＝廃墟・荒廃)」を見た。伊澤の顕彰は学校に魂を取り戻す行動であった。制作者長谷川義起(明治二十四―昭和四十九年〔一八九一―一九七四〕)は東京美術学校を卒業した三十八歳の彫刻家で、「偉人傑士の銅像を建つるは一箇の学校を建つると同一意義」と請けた。彼の苦心が除幕式の制作報告^{〔*4〕}に綴られている。長谷川は伊澤の「特級の教育家」^{〔*5〕}「伝統的範囲を脱し卓抜なる識見」



奏楽堂前にて胸像除幕式(昭和5年7月)。現在の奏楽堂とほぼ同じ位置にあった当時の奏楽堂は、上野公園内に移築保存されている



昭和10年代半ば。胸像前で記念撮影

「才氣縦横」鉄をも溶かす熱烈なる態度を冥想し、伊澤の特色と人格を広い額、肩、眉間、豊頬、下顎骨の出つ張り、後頭部突出に表し、薄色を施した。胸像は校舎前庭に奏楽堂を正面から見守るよう建立され、桜色の万成石の台石に伊澤作曲の「紀元節」の旋律をブロンズで嵌めて統一感を持たせた。胸像に潤いある環境をと「背景に常緑樹」「小丘に芝生」を配し、末永い保護を同校に託した。胸像は東京音楽学校のシンボルとなり、創立記念日には花輪で飾られ、胸像前は生徒たちの記念撮影の場所となった^{〔*5〕}。(はしもと・くみこ 総合芸術アーカイブセンター大学史料室特任助教・音楽学部非常勤講師)

「才氣縦横」鉄をも溶かす熱烈なる態度を冥想し、伊澤の特色と人格を広い額、肩、眉間、豊頬、下顎骨の出つ張り、後頭部突出に表し、薄色を施した。胸像は校舎前庭に奏楽堂を正面から見守るよう建立され、桜色の万成石の台石に伊澤作曲の「紀元節」の旋律をブロンズで嵌めて統一感を持たせた。胸像に潤いある環境をと「背景に常緑樹」「小丘に芝生」を配し、末永い保護を同校に託した。胸像は東京音楽学校のシンボルとなり、創立記念日には花輪で飾られ、胸像前は生徒たちの記念撮影の場所となった^{〔*5〕}。(はしもと・くみこ 総合芸術アーカイブセンター大学史料室特任助教・音楽学部非常勤講師)

*1 音楽取調掛は明治十三年に創設された。
*2 東京美術大学創立百周年の昭和六十二年(一九八七)、伊澤の郷里高遠に胸像複製が建立された。
*3 『音楽取調成績報告』(明治十七年〔一八八四〕)参照。
*4 「伊澤初代校長胸像除幕式関係」(大学史料室蔵)および『同声会報』(昭和七年七月八月)参照。
*5 現在は奏楽堂横の小径に移されている。